

BOOK Review

薬剤師レジデントマニュアル 第3版



評者 筒井 由佳 日本病院薬剤師会副会長/近森病院薬剤部長

「6年制の薬剤師にふさわしい業務にしなければ」、この思いは私たち臨床現場で勤務する薬剤師が業務を大きく変化させる原動力の一つとなりました。もっと臨床に強くなり、治療に参加するにはどうすればいいのか、薬剤師が病棟で活躍するためには何が必要なのか、多くの施設で考え、模索し続けた結果、他職種から「病棟になくてはならない存在」と言われる現在の病院薬剤師の姿があります。そしてその活躍の場は外来や連携、地域といった多方面に広がりを見せています。

業務の広がりは新人教育にも影響しています。6年制の大学を出たからといって新人薬剤師がすぐに現場で活躍できるものではありません。薬剤師の働く場が調剤室の中だけであった時代とは比較できないほど、薬剤師が身につけるべき知識、技術は広く、深くなりました。本書はそのような膨大な情報の中から薬剤師が知っておくべき情報をコンパクトにまとめ、現場で活用できることを重視し、実践的に記述されています。

多くの読者の支持を得て刊行された待望の第3版。執筆陣に薬剤師レジデント修了者が多く登用され、査読者には既刊を執筆し、現在指導的役割を果たしている薬剤師が配された本書の最大の強みは、本書をこれまで利用してきた薬剤師が利用者の目線を第一に執筆したことにあります。

総論では調剤からスペシャルポピュレーションに対す

る薬物療法の注意点、フィジカルアセスメントなどがすぐそばの患者の存在を意識して解説されており、大学で学んだ知識と現場を結びつける役割を果たしてくれます。各論は主要疾患について復習・確認ができ、治療ガイドラインや標準治療のアルゴリズムの記載と合わせて、医師の処方意図を理解しやすいよう構成されています。また「薬学的ケア」や「処方提案」の項には現場の薬剤師の視点や臨床経験が十分に盛り込まれ、まさに執筆された先生方の仕事ぶりが伝わる魂のこもった一冊となっています。

若手薬剤師はもとより中堅薬剤師も苦手分野や経験不足な領域の復習、アップデートに役立てることができそうです。そして高齢で併存疾患を多く抱える患者が増加するこれからの医療現場において、専門医をサポートして併存疾患の薬物療法に対応する場面や混合病棟でさまざまな領域の疾患に介入する状況では、全ての薬剤師が一定レベルでアセスメントからアプローチまで迷いなく進めるよう手助けしてくれる本書は非常に心強い存在になるでしょう。

本書を手にした皆さんには、これをポケットに入れて患者のそばまで足を運び、薬物療法の経験を積み重ねることで「いつもと違う」「何かおかしい」に気付ける薬剤師として、臨床の場で活躍していただきたいと思います。

橋田 亨, 室井 延之, 西岡 弘晶 編

B6変型/400頁/2021年/定価3,850円(本体3,500円+税10%) / ISBN978-4-260-04578-0 / 医学書院刊